

【資料編】

参考資料—1 工事技術的難易度評価の解説

- ・平成 13 年度より運用が開始された「工事の技術的難易度」の評価に関わる評価要領が記載されている「地方整備局工事技術的難易度評価実施要領」について、評価手順等についてより詳細な解説を加え取りまとめた。

参考資料—2 工事難易度評価の小項目別運用表評価事例集（案）

- ・平成 11 年度、12 年度に実施した試行により収集した約 5、800 件のデータより、小項目に対する評価内容の具体例を抽出・整理し、意見照会結果をもとに加除、修正を加え「工事難易度評価の小項目別運用表評価事例集（案）」としてとりまとめた。各小項目の評価は、工事特性を鑑み評価者のエンジニアリングジャッジにより行うものであるが、評価者の判断の補助としての活用を目的とする。

参考資料—1

工事技術的難易度評価の解説

一般土木工事

平成14年3月

国土技術政策総合研究所
建設マネジメント技術研究室

目次

1. 工事技術的難易度評価の目的	1
2. 工事技術的難易度評価の経緯	1
3. 工事技術的難易度評価の運用について	1
1) 工事難易度評価運用方法の概要について	1
2) 発注時工事技術的難易度評価と発注標準との対応	2
3) 完了時工事技術的難易度評価と主観点との対応	2
4. 工事技術的難易度評価実施についての解説	3
1) 評価対象工事	3
2) 評価時期	3
3) 評価者、評価体制	3
4) 評価結果の報告	3
5) 評価結果の通知	3
6) 評価方法	4
別紙1～別紙4	16

1. 工事技術的難易度評価の目的

発注時における工事技術的難易度評価は、当該工事が固有に抱える「工事の技術的難易度」を適切に評価することにより、各工事特性に対応した専門技術やマネジメントに関わる技術力や能力を有する企業の選定、あるいは入札契約方式の選定に資すると考えられます。

また、完了時の工事技術的難易度評価は、「新・工事成績評定」において「VE点」とともに企業評価に反映されこととなりました。

2. 工事技術的難易度評価の経緯

旧建設省では既に、CORINS をベースとした工事難易度評価システム(旧難易度)が構築されていましたが、以下のような課題を抱えていました。

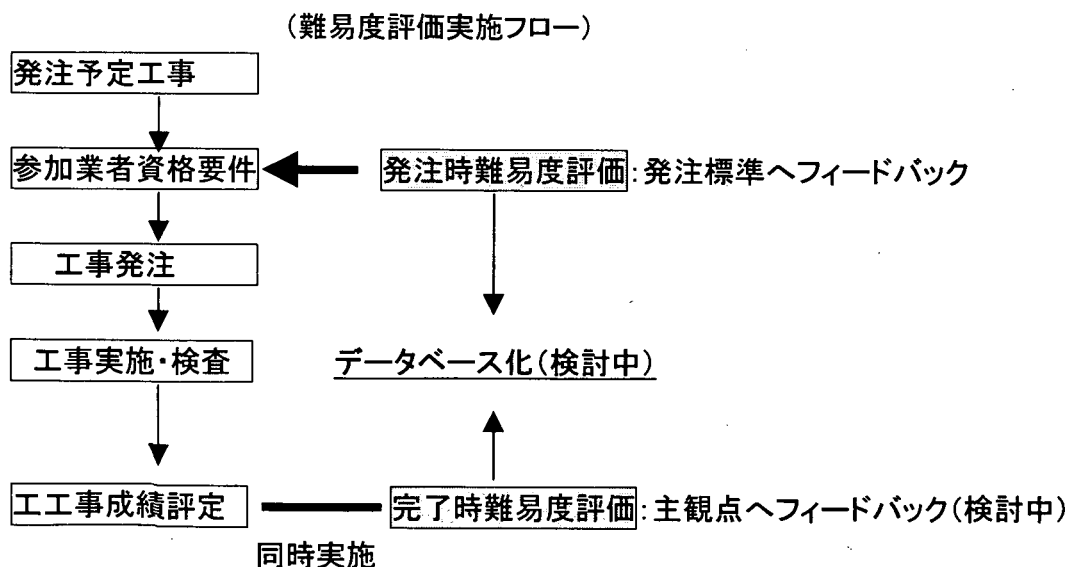
- ・構造物の規模(延長、断面等)を主体とした評価システムとなっており、地質等の周辺環境の評価が小さく、実感にあわない。
- ・規模以外の影響要因が一律な評価であり、重み付けができない仕組みである。
- ・客観性を重視するあまり、数値指標に偏重している。

これらの課題を解決するため、新工事技術的難易度評価が平成 11 年より試行され、平成 13 年度発注工事より本格的に適用されることとなりました。

3. 工事技術的難易度評価の運用について

1) 難易度評価運用方法の概要について

工事技術的難易度は発注時評価においては発注標準へフィードバックされ、完了時評価については工事成績評定及び VE 提案等評定とともに企業実績評価にフィードバックされます。



* 発注時、完了時も工事技術的難易度評価は I ~ VI の 6 段階で評価されます。

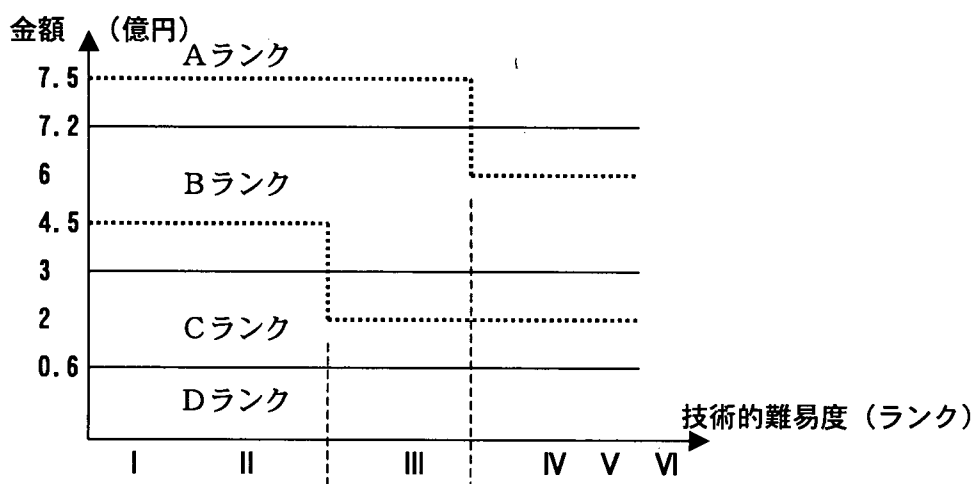
2)発注時工事技術的難易度評価と発注標準との対応

「工事請負業者選定事務処理要領における一般土木工事に関する指名基準に係る技術的難易度等の運用について」(平成13年3月30日付け)の通達により、「工事請負業者選定事務処理要領」(昭和41年12月23日付け 建設省厚第76号)第16二、第16三における一般土木工事に関する予定価格と技術的難易度の取り扱いは当面の間、以下のとおりとなっております。

表一1 予定価格及び技術的難易度の取り扱い表

条項等	等級区分	予定価格	技術的難易度
第16二関係	A	7億5千万円以上	I～III
	B	4億5千万円以下	I～II
第16三関係	B	6億円以上	IV～VI
	C	2億円以上	III～VI

図一1 対応参考図



3)完了時工事技術的難易度評価と主観点との対応

完了時工事技術的難易度については、平成5年より CORINS(旧難易度)においてもデータが収集されており、平成15年度の主観点に過去5年分の完了時工事技術的難易度評価点が反映されることとなります。このため新旧難易度を関連づけるとともに完了時の新難易度評価(I～VI)を難易度点として換算する方法について現在検討を進めております。

平成15年度請負業者格付(平成10年～平成14年の5年間の実績)

- ・ 平成10年度～平成12年度に発注された工事→旧難易度評価点を使用
- ・ 平成13年度～平成14年度に発注された工事→新難易度評価点を使用

*このため平成12年度までの発注工事は、旧難易度で評価を実施する必要があります。

4. 工事技術的難易度評価実施についての解説

工事技術的難易度評定を運用する工事において適切かつ統一的な工事難易度評価が行われることを目的とし、工事難易度評価実施についての解説を以下に示します。

1) 評価対象工事

○発注時評価

契約予定金額が発注工事運用において、工事難易度を考慮して競争参加資格等を設定する必要のある工事(一般土木工事2億～4.5億、6億～7.5億)。

○完了時評価

請負金額 500万円以上の請負工事(平成13年度以降発注工事)

* CORINS における旧難易度では請負金額 2 千 5 百万円以上の工事に評価を実施しており、平成 12 年度までに発注された工事については旧難易度を継続する必要があります。

2) 評価時期

○発注時評価

揭示文、審査基準原案等の作成時

○完了時評価

工事の完成時(工事成績評定と同時実施)

3) 評価者、評価体制

○発注時評価：(本官)技術審査会の意見を踏まえ地方整備局長が評価します。

(分任官)技術審査会の意見を踏まえ事務所長が評価します。

○完了時評価：主任監督員、検査官の意見を踏まえ総括監督職員が評価します。

4) 評価結果の報告

完了時評価については、事務所長は評価者から工事技術的難易度評価表の提出がなされた後、速やかに地方整備局長に報告する必要があります。

5) 評価結果の通知

完了時評価については、地方整備局長(分任支出負担行為担当官又は分任契約担当官の契約した工事については、当該工事を担当する事務所長)は、「地方整備局工事成績評定通知実施要領」の定めるところにより、当該工事の請負者に通知する必要があります。

6) 評価方法

(1) 共通事項の記入について

工事技術的難易度評価は別紙—1—1、別紙1—2の記入表を用いて記入しますが、発注時と完了時では記載内容が多少異なりますので注意してください。

記入については以下の事項に注意してください。

① 表題:発注時と完了時では表題を区分してください。

- ・発注時:発注時工事難易度評価表
- ・完了時:完了時工事難易度評価表

② 契約方式:(発注時、完了時)

下記より選んで正確な名称を記入してください。

- ・一般競争入札方式
- ・指名競争入札方式
- ・公募型指名競争入札方式
- ・工事希望型指名競争入札方式
- ・随意契約方式
- ・入札時VE方式(価格競争)
- ・入札時VE方式(総合評価)
- ・入札時VE方式(設計施工提案)
- ・性能発注方式
- ・設計施工一括発注方式(価格競争)
- ・設計施工一括発注方式(総合評価)
- ・他

③ 工事名:(発注時、完了時)

正確な発注名称を記入してください。

④ 負担行為件名コード:(完了時のみ)

整備局コード+負担行為コード6桁で記入してください。

⑤ 企業名:(完了時のみ)

正確な企業名で記入してください。

単独工事の場合 ○○建設株式会社

企業体の場合は下記のとおり記入してください。

JV工事の場合 ○○建設(株)・(株)△△工業 JV

⑥ 契約金額:(発注時、完了時)

発注時においては発注予定金額、完了時においては最終契約金額を記入してください。

⑦ 工期:(発注時、完了時)

発注時においては予定工期、完了時においては最終工期を記入してください。

工期の着工年月日～竣工年月日(HOO.××.△△)を記入してください。

⑧ CORINS 登録番号:(完了時のみ)

請負者がCORINS登録手続き完了後にJACICより付与される番号を記入しますので発注時は空欄となります。直轄工事におCORINSでは2千5百万円未満の工事CORINS登録の対象外となるため、2千5百万円未満の工事は該当なしと記入するか空欄と記入してください。

⑨ 工事種別コード:(発注時、完了時)

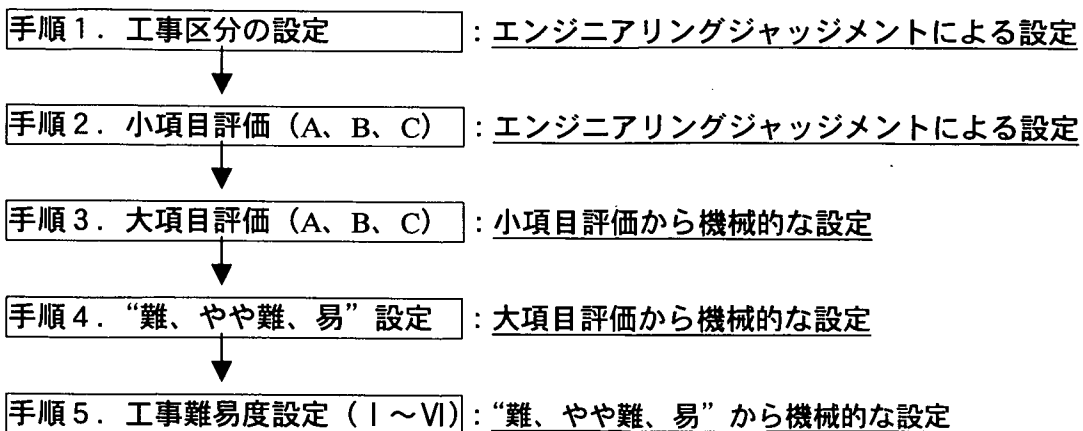
下記の分類により番号を記入してください。

表—2 工事種別コード表

1	一般土木	2	アスファルト舗装	3	橋梁上部
4	造園	9	セメント・コンクリート舗装	10	プレストレス
11	法面	12	塗装	13	維持
14	しゅんせつ	15	グラウト	16	杭打
17	さく井				

(2) 評価項目、評価内容の記入について

工事技術的難易度評価手順は以下に示すとおりです。(別紙—2参照)



(3) 評価手順の解説

手順1. 工事区分の設定

工事技術的難易度評価結果に工事区番号を付してデータベース化することにより、事業分類・構造物分類・構造形式・工法分類による各工事特性に対応した専門技術やマネジメントに関わる技術力や能力を有する企業の抽出を容易に行うことを目的とします。

評価対象工事に含まれる最も工事難易度の高い工事区分を別紙—3の「工事区分表」より選択し記入します。

手順2 小項目の評価の実施

各小項目の評価は、次頁表—3の「工事技術的難易度評価の小項目別運用表」の評価対象事項欄を基に、工事特性を鑑み評価者のエンジニアリングジャッジにより行いますが、統一的な難易度評価の運用のため、評価者の判断の補助として各評価小項目につき難易度判定のための事例(別途「評価事例集(案)」)を作成しています。

評価内容記入欄には、規模等具体的な状況が数値で記入可能なものについては、極力具体的な記述を行ってください。

表-3 工事難易度の評価項目別運用表

大項目	小項目	評価対象事項(代表的事項等)
1. 構造物条件	①規模	対象構造物の高さ、延長、施工(断)面積、施工深度等の規模
	②形状	対象構造物の形状の複雑さ(土被り厚やトンネル線形等を含む)
	③その他	既設構造物の補強、撤去等特殊な工事対象
2. 技術特性	①工法等	工法、使用機械、使用材料等
	②その他	施工方法に関する技術提案等
3. 自然条件	①湧水・地下水	湧水の発生、掘削作業等に対する地下水位の影響等
	②軟弱地盤	支持地盤の状況
	③作業用道路・ヤード	河川内・海域・急峻な地形条件下等、工事用道路・作業スペース等の制約
	④気象・海象	雨・雪・風・気温・波浪等の影響
	⑤その他	地すべり等の地質条件、急流河川における水流、海域における潮流等の影響、動植物等に対する配慮等
4. 社会条件	①地中障害物	地下埋設物等の地中内の作業障害物
	②近接施工	工事の影響に配慮すべき鉄道営業線・供用中道路・架空線・建築物等の近接物
	③騒音・振動	周辺住民等に対する騒音・振動の配慮
	④水質汚濁	周辺水域環境に対する水質汚濁の配慮
	⑤作業用道路・ヤード	生活道路を利用する資機材搬入等の工事用道路の制約、路面覆工下・高架下等の作業スペースの制約
	⑥現道作業	現道上での交通規制を伴う作業
	⑦その他	騒音・振動・水質汚濁以外の環境対策、廃棄物処理等
5. マネジメント特性	①他工区調整	隣接工区との工程調整
	②住民対応	近隣住民との対応
	③関係機関対応	関係行政機関・公益事業者等との調整
	④工程管理	工期・工程の制約・変更への対応(工法変更等に伴うものを含む)
	⑤品質管理	品質管理の煩雑さ、複雑さ(高い品質管理精度の要求等を含む)
	⑥安全管理	高所作業、夜間作業、潜水作業等の危険作業
	⑦その他	災害時の応急復旧等

[評価方法]

以下の3ランクの評価を行います。

- A: 特に困難な、または、特に高度な技術を要する「条件・状況」
- B: 困難な、または、高度な技術を要する「条件・状況」
- C: 一般的に生ずる、または、通常の技術で対応可能な「条件・状況」

手順3 大項目の評価

大項目は①構造物条件、②技術特性、③自然条件、④社会条件、⑤マネジメント特性、⑥特別考慮要因より構成されます。⑥特別考慮要因とは、①～⑤には属さないが工事特性を鑑み評価を要する特別な要因がある場合(超大規模構造物、大規模地震災害後の緊急復旧工事等とりわけ難易度の高い条件がある場合)は評価欄にAまたはBを記入するとともに評価内容欄に具体の条件を記述します。該当がない場合は空欄にしてください。

評価された小項目評価のABCの組み合わせにより、以下の評価基準により大項目評価のA、B、C評価を行います。

表—4 大項目判定基準

大項目評価	小項目評価
A	対象大項目に対応する各小評価項目にA判定が1つ以上ある
B	対象大項目に対応する各小評価項目にB判定が1つ以上あり、かつ、A判定がない
C	対象大項目に対応する各小評価項目にA、もしくは、B判定がない

次頁以降に、各大項目(構造物条件、技術特性、自然条件、社会条件、マネジメント特性)の判定表を示します。

1: 構造物条件のABC判定表

対応小項目: ①規模 ②形状 ③その他

表-5 構造物条件のABC判定表

		小項目Aの数			
		0	1	2	3
小項目 Bの数	0	大項目C評価			
	1		大項目A評価		
	2	大項目B評価			
	3				

2: 技術特性のABC判定表

対応小項目: ①工法等 ②その他

表-6 技術特性のABC判定表

		小項目Aの数		
		0	1	2
小項目 Bの数	0	大項目C評価		
	1		大項目A評価	
	2	大項目B評価		

3: 自然条件のABC判定表

対応小項目: ①湧水・地下水 ②軟弱地盤 ③作業用道路・ヤード ④気象・海象

⑤その他

表—7 自然条件のABC判定表

		小項目Aの数					
		0	1	2	3	4	5
小項目 Bの数	0	大項目C評価					
	1			大項目A評価			
	2	大項目B評価					
	3						
	4						
	5						

4: 社会条件のABC判定表

対応小項目: ①地中障害物 ②近接施工 ③騒音・振動 ④水質汚濁
 ⑤作業用道路・ヤード ⑥現道作業 ⑦その他

表—8 社会条件のABC判定表

		小項目Aの数								
		0	1	2	3	4	5	6	7	
小項目 Bの数	0	大項目C評価								
	1									
	2			大項目A評価						
	3									
	4	大項目B評価								
	5									
	6									
	7									

5: マネジメント特性のABC判定表

小項目: ①他工区調整 ②住民対応 ③関係機関対応 ④工程管理 ⑤品質管理 ⑥安全管理 ⑦その他

表—9 マネジメント特性のABC判定表

		小項目Aの数							
		0	1	2	3	4	5	6	7
小項目 Bの数	0	大項目C評価							
	1								
	2			大項目A評価					
	3								
	4	大項目B評価							
	5								
	6								
	7								

6: 特別考慮要因

評価者のエンジニアリングジャッジにより該当する事項があれば A または B を記入します。

手順4. “難、やや難、易”設定

評価された大項目評価のABCの組み合わせにより、以下の表-10より各工事の「易、やや難、難」の判定を行います。

統一的な難易度評価の運用のため、以下の判定基準に従い「易、やや難、難」の判定を行います。この際に、特別考慮要因が存在する場合、特別考慮要因のAB判定も数に含めるものとします。

なお、大評価項目にA判定が1つあり、かつB判定が3個以下の場合は「やや難」と判定することを標準としますが、A判定項目の工事特性を鑑み、「難」と判定してもよいものとします。

表-10 「易、やや難、難」判定基準

「易、やや難、難」の判定	大項目評価
難	<ul style="list-style-type: none"> ・大評価項目にA判定が2つ以上ある ・大評価項目にA判定が1つあり、かつB判定が4個以上ある ・大評価項目にA判定が1つあり、かつB判定が3個以下の場合にも、工事特性により、「難」と判定してもよい
やや難	<ul style="list-style-type: none"> ・大評価項目にB判定が1つ以上あり、かつ、A判定がない ・大評価項目にA判定が1つ以上あり、かつ、B判定が3個以下である
易	・大評価項目にA、もしくは、B判定項目がない

「易・やや難・難」と大項目評価(構造物条件、技術特性、自然条件、社会条件、マネジメント特性)との関係

		大項目Aの数					
		0	1	2	3	4	5
大項目 Bの数	0	易					
	1		やや難(or難)		難		
	2						
	3	やや難					
	4		難				
	5						

手順5. 工事難易度設定 (I~VI)

「易、やや難、難」判定を踏まえ、工事区分に応じ、以下の表—11よりI~VIとして評価します。
 なお、特に難易度を高める特別な要因がある場合、難易度を高める要因が特に多岐にわたる場合等には、各工事区分の「難」より上位のランクに評価します。

また以上の手順により記入した別紙—4—1, 4—2の発注時、完了時工事難易度評価表記入例を参照してください。

表—11 工事区分別工事難易度対応表

事業分類	工事区分 (構造物分類・構造形式・工法分類)	I	II	III	IV	V	VI
1. 河川	河川堤防, 河川護岸, 床止め・床固め, 河川浚渫, 維持管理	易	やや難	難			
	樋門・樋管, 水路トンネル(推進工法), 伏せ越し, 揚排水機場		易	やや難	難		
	堰・水門, 水路トンネル(山岳トンネル工法, シールド工法, 開削工法)			易	やや難	難	
2. 海岸	海岸堤防, 護岸, 養浜, 海岸浚渫, 維持管理	易	やや難	難			
	突堤・離岸堤		易	やや難	難		
3. 砂防・地滑り	流路工, 維持管理	易	やや難	難			
	砂防ダム, 斜面对策		易	やや難	難		
4. ダム	維持管理	易	やや難	難			
	転流トンネル			易	やや難	難	
	堤体工				易	やや難	難
5. 道路	舗装, 道路付属施設, 切土工, 盛土工, 斜面安定・法面工, 加幅工事, 擁壁工, 排水工, 情報BOX, シフト, 維持管理	易	やや難	難			
	共同溝(推進工法, 開削工法), 橋梁上部工, 橋梁下部工, 電線共同溝・CAB		易	やや難	難		
	トンネル(山岳トンネル工法, シールド工法, 開削工法), 共同溝(シールド工法)			易	やや難	難	
	トンネル(沈理工法)				易	やや難	難
		易	やや難	難			
6. 公園		易	やや難	難			

※工事区分において上記に該当しない場合は、類似の工事区分との関係等から類推します。

発注時工事難易度評価表

別紙1-1

平成 年 月 日作成
 地方整備局 工事事務所

入札契約方式		評価項目	
大項目	評価	小項目	評価
工事名			
負担行為件名コード			
請負業者名			
		契約金額(予定)	
		工期(予定)	
		CORINS登録番号	
		工事種別コード	
		評価内容	
1. 構造物条件		①規模	
		②形状	
		③その他	
2. 技術特性		①工法等	
		②その他	
3. 自然条件		①湧水・地下水	
		②軟弱地盤	
		③作業用道路・ヤード	
		④気象・海象	
		⑤その他	
4. 社会条件		①地中障害物	
		②近接施工	
		③騒音・振動	
		④水質汚濁	
		⑤作業用道路・ヤード	
		⑥現道作業	
		⑦その他	
5. マジック特性		①他工区調整	
		②住民対応	
		③関係機関対応	
		④工程管理	
		⑤品質管理	
		⑥安全管理	
		⑦その他	
6. 特別考慮要因			
工事区分			
		工事難易度評価	
		「易、やや難、難」評価	

※ 評価内容には、規模等具体の状況が数値で記入可能なものについては、極力具体的な記述を行う。

完了時工事難易度評価表

別紙1-2

平成 年 月 日
 地方整備局 作成
 工事事務所

入札契約方式		契約金額(最終)		評価内容
工事名		工期(最終)		
負担行為件名コード		CORINS登録番号		
請負業者名		工事種別コード		
評価項目				
大項目	評価	小項目	評価	
1. 構造物条件		①規模		
		②形状		
2. 技術特性		③その他		
		①工法等		
3. 自然条件		②その他		
		①湧水・地下水		
4. 社会条件		②軟弱地盤		
		③作業用道路・ヤード		
		④気象・海象		
		⑤その他		
		①地中障害物		
5. マネジメント特性		②近接施工		
		③騒音・振動		
		④水質汚濁		
		⑤作業用道路・ヤード		
		⑥現道作業		
		⑦その他		
		①他工区調整		
6. 特別考慮要因		②住民対応		
		③関係機関対応		
		④工程管理		
		⑤品質管理		
		⑥安全管理		
		⑦その他		
工事区分				工事難易度評価 「易、やや難、難」評価

※ 評価内容には、規模等具体の状況が数値で記入可能なものについては、極力具体的な記述を行う。

入札契約方式		
工事名	契約金額(最終)	
負担行為件名コード	工期(最終)	
請負業者名	CORINS登録番号	
	工事種別コード	
大項目	評価項目	評価内容
1. 構造物条件	評価 小項目 ①規模 ②形状 ③その他 ①工法等 ②その他 ①湧水・地下水 ②軟弱地盤 ③作業用道路・ヤード ④気象・海象 ⑤その他	手順2
2. 技術特性		
3. 自然条件		
4. 社会条件	手順 3	
5. マジック/特性		
6. 特別考慮要因		
工事区分	手順 手順5 「易、やや難、難」評価 手順4	

※ 評価内容には、規模等具体の状況が数値で記入可能なものについては、極力具体的な記述を行う。

事業分類	構造物分類	構造形式・工法分類	区分番号
1. 河川	1.1河川堤防		1010
	1.2河川護岸		1020
	1.3床止め・床固め		1030
	1.4堰・水門		1040
	1.5樋門・樋管		1050
	1.6水路トンネル		1061
		1.6.1山岳トンネル工法	1062
		1.6.2トンネル工法	1063
		1.6.3推進工法	1064
		1.6.4開削工法	1070
	1.7伏せ越し	1080	
	1.8掃排水機場	1090	
	1.9河川浚渫	1100	
	1.10河川維持管理 (補強・改築は含まない)		1110
2. 海岸	2.1海岸堤防		2010
	2.2護岸		2020
	2.3突堤・離岸堤		2030
	2.4養浜		2040
	2.5海岸浚渫		2050
	2.6海岸維持管理 (補強・改築は含まない)		2060
3. 砂防・地滑り	2.7その他		2070
	3.1砂防ダム		3010
	3.2流路工		3020
	3.3斜面対策 (地下水排除工、抑止杭工を含む)		3030
	3.4砂防維持管理 (補強・改築は含まない)		3040
	3.5その他		3050
4. ダム	4.1ダム (転流トンネルは、5. 道路— 5.1トンネルで評価する。)	4.1.1重力式ダム工事	4011
		4.1.27-字式ダム工事	4012
		4.1.30ツツリダム工事	4013
		4.1.47-字ダム工事	4014
		4.1.5表面遮水壁ダム	4015
		4.1.6複合ダム工事	4016
		4.1.7ダム維持管理 (補強・改築は含まない)	4017
	4.1.8その他	4018	

事業分類	構造物分類	構造形式・工法分類	区分番号
5. 道路	5.1トンネル	5.1.1山岳トンネル工法	5011
		5.1.2トンネル工法	5012
		5.1.3開削工法	5013
		5.1.4沈埋工法	5014
	5.2共同溝	5.2.1トンネル工法	5021
		5.2.2推進工法	5022
		5.2.3開削工法	5023
	5.3橋梁上部	5.3.1RC橋	5031
		5.3.2PC橋	5032
		5.3.3鋼橋	5033
		5.3.4床版工(鋼橋)	5034
	5.4橋梁下部	5.4.1RC橋脚・橋台	5041
		5.4.2鋼製橋脚・橋台	5042
		5.4.3合成構造橋脚・橋台	5043
	5.5舗装	5.5.1アスファルト舗装	5051
		5.5.2アスファルト舗装	5052
		5.5.3コンクリート舗装	5053
5.6道路付属施設	5.6.1擁壁工	5060	
	5.7切土工	5070	
	5.8盛土工	5080	
	5.9斜面安定・法面工	5090	
	5.10加圧トンネル工	5100	
	5.11擁壁工	5110	
	5.12排水工	5120	
	5.13電線共同溝・CAB	5130	
	5.14情報BOX	5140	
	5.15トンネル	5150	
	5.16道路維持管理 (補強・改築は含まない)	5160	
6. 公園	5.17その他		5170
	6.1基盤整備		6010
	6.2植栽		6020
	6.3施設整備		6030
	6.4ランド・コート整備		6040
	6.5自然育成		6050
6.6公園維持管理 (補強・改築は含まない)		6060	
7. その他	6.7その他		6070
	7.1その他		7010

発注時工事難易度評価表(記入例)

平成 年 月 日
 地方整備局 作成
 工事事務所

入札契約方式	入札時VE方式(総合評価)	
工事名	〇〇共同溝(その1)工事	
負担行為件名コード		
請負業者名		
	契約金額(予定)	#####
	工期(予定)	H13.5.10 ~ H14.11.30
	CORINS登録番号	工事種別コード
	評価内容	
大項目	評価	評価
1. 構造物条件	B	B
		U型擁壁L=300m H=3.0m W=7.0m W=19.0~20.6m、重力擁壁L=60m×両側H=2.7m
2. 技術特性	A	B
		仮設(SMW、シートパイル、地盤改良、路面覆工、中間支持杭)
		A 汚染土壌の浄化処理技術に関し技術提案を求め、入契方式に総合評価型の入札時VE適用
3. 自然条件	B	B
		B 湧水・地下水
		B 軟弱地盤
		B 軟弱地盤地区における改良施工、仮設物の変位監視
		B 作業用道路・ヤード
		B 気象・海象
		B その他
4. 社会条件	A	
		A ①地中障害物
		A ②近接施工
		B ③騒音・振動
		A ④水質汚濁
		A ⑤作業用道路・ヤード
		A ⑥現道作業
		A ⑦その他
5. マジメ特性	A	A
		A ①他工区調整
		A ②住民対応
		A ③関係機関対応
		A ④工程管理
		A ⑤品質管理
		A ⑥安全管理
		A ⑦その他
6. 特別考慮要因	A	
		A 汚染土壌の処理
工事区分	5023	開削工法
		工事難易度評価 V
		「易、やや難、難」評価 難

※ 評価内容には、規模等具体の状況が数値で記入可能なものについては、極力具体的な記述を行う。

完了時工事難易度評価表（記入例）

別紙4-1-2

平成 年 月 日
 地方整備局 作成
 工事事務所

入札契約方式		一般競争入札方式	
工事名	〇〇川第2砂防ダム工事	契約金額	#####
負担行為件名コード	*****（整備局コード＋負担行為コード6桁）	工期（最終）	H11.5.10 ～ H12.3.10
請負業者名	△△建設株式会社	CORINS登録番号	***** 工事種別コード**
評価項目			
大項目	評価	小項目	評価
1. 構造物条件	B	①規模	B
		②形状	
		③その他	
2. 技術特性	A	①工法等	A
		②その他	B
3. 自然条件	A	①湧水・地下水	
		②軟弱地盤	
		③作業用道路・ヤード	A
		④気象・海象	
		⑤その他	B
4. 社会条件	C	①地中障害物	
		②近接施工	
		③騒音・振動	
		④水質汚濁	
		⑤作業用道路・ヤード	
		⑥現道作業	
		⑦その他	
5. マシント特性	B	①他工区調整	
		②住民対応	
		③関係機関対応	
		④工程管理	B
		⑤品質管理	C
		⑥安全管理	C
		⑦その他	
6. 特別考慮要因	C		
工事区分	3010	砂防ダム	
		工事難易度評価	Ⅳ
		「易、やや難、難」評価	難
評価内容			
H=25mの砂防ダム			
現地土砂とセメント等を混合して砂防ダムを施工			
緊急災害復旧工事であり、重機配置や除石順序など要注者に提案を求めた			
最大勾配が40度			
周辺に貴重種の〇〇群落がある			
緊急災害復旧工事であり、除石作業の早期完了が望まれた			

※ 評価内容には、規模等具体の状況が数値で記入可能なものについては、極力具体的な記述を行う。